

イギリスの新聞のヘッドラインにおける 近年の変化について

野 波 侑 里

Diachronic Change of the Headlines
in British Newspapers in Recent Years

NONAMI Yuri

1. 序

新聞のヘッドラインは新聞の歴史と共に様々な変化を遂げてきた。

たとえば、イギリスの *The Times* のヘッドラインを約200年前の創刊当初から50年ずつに区切って概観してみると下記のようになる。

(1) 1785-1850年

FOREIGN INTELLIGENCE.

LORD NELSON. (*Times*, 14 November 1805)

(2) 1851-1900年

THE CIVIL WAR IN PARIS. (*Times*, 25 March 1871)

The ANSWER of RUSSIA to the AUSTRIA SUMMONS.

(*Times*, 12 August 1854)

(3) 1901-1950年

TITANIC SUNK. (*Times*, 16 April 1912)

ONLY 868 PASSENGERS PICKED UP. (*Times*, 17 April 1912)

(4) 1951-2000年

MORE TROOPS MAY GO TO VIETNAM (*Times*, 19 February 1968)

Demands listed as Czech students launch strike

(*Times*, 19 November 1968)

まず創刊当初からの約50年は、(1)のように記事のジャンルを示したものや、記事に登場する主要な人物をとりあげた名詞句のみのヘッドラインからはじまり、次の50年を見ると(2)のように、前置詞を使用した具体的な内容の名詞句が多くなる。20世紀に入ると、(3)のように動詞を使用したヘッドラインも名詞句と並行して使用されるようになる。さらに最近の過去50年をみると、(4)のように法助動詞を含んだもの、時を表す副詞節を含んだヘッドライン等の多様なヘッドラインが観察されるようになった。このような *The Times* のヘッドラインの約200年にわたる歴史的な変化については、野波（2000）で概観した。

本稿では、1960年代から今年にかけての過去40年間に特に焦点をあて、イギリスの新聞8紙についてその変化の考察を試みた。近年はテレビ・ラジオなど他のメディアの普及、そして数多くの種類の新聞が相次いで創刊され、一方では発行部数の伸び悩みにより廃刊を余儀なくされるという新聞業界にとって競争の激しい時代となっている。そのような環境の中で新聞のヘッドラインは、より重要な意味を担うことになり、新聞各社は多様な工夫を凝らすようになったのではないかと思われる。

今回は、この近年のヘッドラインについて、まず構造と機能面から数量的な分析を行い、さらに各時代のヘッドラインを詳細に考察した。また、野波（2000）では、過去200年のヘッドラインの変化について、*The Times* だけに焦点をあてた。それは、イギリスにおいて過去200年間継続して発刊された新聞が *The Times* だけであったからである。しかし今回はイギリスの高級紙と、高級紙よりも発行部数ではかなり多くの部数を誇る大衆紙についても考察範囲に加え、高級紙と大衆紙の比較も試みた。

2. 先行研究

新聞のヘッドラインに関する先行研究では、先駆的な文献として、Straumann (1935) が通時的、共時的な観点からヘッドラインを詳細に分析しているが、発行年が古い為に近年のヘッドラインについては分析されていない。また Mardh (1980) は、1974年の *The Times* と *The Mirror* のヘッドラインについて、高級紙と大衆紙を比較して考察しているが通時的な研究ではない。さらに、ヘッドラインの考察については、様々な文献で採り上げられているが、近年の変化に焦点をあてた研究はないことから、今回考察を試みることにした。

ヘッドラインの文体に注目され始めた時期を考えると、Mardh (1980) の本のタイトルは、*headlines* である。この用語はヘッドラインの文体特徴のことをさすが、この用語を *OED* で調べてみると、*OED* 第1版とその Supplement には掲載されておらず、*OED* 第2版になってはじめて掲載され、初出は1927年になっている。この点から判断してすると、ヘッドライン自体が注目されるようになったのは、20世紀以降であることがわかる。

また、(5)に *OED* 第2版からこの定義を載せたが、この用語は特に大衆紙のヘッドラインについて使用される用語であると記述されており、大衆紙はヘッドラインの考察にとって欠くことのできないものであるといえる。

- (5) headlines: The elliptical style of language characteristic of the headlines, esp. in popular newspapers. (*OED* 2nd)

3. 考察

3-1 考察対象

考察の対象とした新聞は、イギリスの高級紙からは *The Times*、*The Telegraph*、*The Guardian*、*The Financial Times* (以下 *FT*) を、そして大衆紙からは、*The Mail*、*The Express*、*The Sun* (1961年当時は *Herald*)、*The Mirror* を使用した。近年では、*The Mail* と *The Express* について、中級紙 (Middle Market) という範疇に分ける傾向もあるが、今回はタブロイド版の大衆紙として一つの範疇にまとめて考察を行った。

過去40年の変化について調べるにあたり、今回は1961年、1981年そして今年の約20年毎の新聞について、8月の最終の週にあたる5日間のイギリスの新聞から、各新聞について一日25個のヘッドラインを採集し、それぞれの年について1000個、合計3000個のヘッドラインを対象に考察した。

3-2 構造による比較

まず、ヘッドラインを構造で分類して数量的な変化を考察した。構造の分類については、Mardh (1980) を参考にした。ヘッドラインの構造は、(6)から(10)のような動詞を含む “Verbal Headlines”、(11)、(12)のような名詞句からなる “Nominal Headlines”、(13)、(14)のような副詞句だけの “Adverbial Headlines”、そして(15)、(16)のような伝達動詞と直接話法を含むもの、あるいは直接話法をそのまま使用した “Free Structure Headlines” の4つに分類した。また “Verbal Headlines” については、(8)、(9)、(10)のような *be* 動詞の省略形を含む構造もこの範疇に入れた。

Verbal Headlines

- (6) PRISON POPULATION REACHES NEW PEAK OF 28,500

(*Times*, 25 August 1961)

- (7) Doting PC kills wife and children with a hammer (*Express*, 31 August 2001)

- (8) BRITISH WOMEN BEATEN IN QUARTER-FINAL

(*Telegraph*, 26 August 1961)

(9) FRENCH ABSENT AS HERN TRIMS LEGER SQUAD TO THREE

(*Telegraph*, 27 August 1981)

(10) BRIGADE H. Q. TO MOVE FROM CYPRUS (*Times*, 25 August 1961)

Nominal Headlines

(11) Angola's UN plea on S Africa 'invasion' (*Times*, 26 August 1981)

(12) OMAGH'S MIRACLE CHILD (*Mirror*, 31 August 2001)

Adverbial Headlines

(13) Anywhere for Spurs' (*Herald*, 26 August 1961)

(14) INSIDE THE TWISTED MIND OF LENNON'S KILLER

(*Sun*, 25 August 1981)

Headlines with free structure

(15) I WAS RIGHT, SAYS THE DOCTOR (*Sun*, 25 August 1981)

(16) HELP! MY DADDY'S TRYING TO HURT ME (*Mail*, 30 August 2001)

まず、Verbal Headlines について、1961年、1981年、2001年の数量的な分析をまとめたものが表1である。全体の総数を見ると、1961年から1981年には増え、その後2001年には減っているのがわかる。しかし、この結果を高級紙と大衆紙に分けて分析してみると、顕著な違いが見られる。高級紙については、1961年と1981年を比較すると *The Times* と *FT* において急激に Verbal Headlines が増え、1981年以降については、どの新聞もあまり変化はない。つまり、1981年以降から高級紙では、Verbal Headline が確立されてきたのがわかる。反対に、大衆紙を見ると、各新聞共に、1961年、1981年、2001年と確実に Verbal Headlines が減少しているのがわかる。特に *The Mail*、*The Mirror* で顕著な結果が現われ、高級紙と大衆紙の違いがはっきりと見られた。

表1 Verbal Headlines

Verbal Headlines	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	77	105	96	69	91	92	95	89	347	367	714
1981年	103	105	101	112	93	80	75	79	421	327	748
2001年	106	107	90	98	66	71	72	63	401	272	673

Nominal Headlines についてまとめたものが、表 2 である。まず、総数を比較してみると、名詞句を使用したヘッドラインは、Verbal Headlines とは反対に、1981年で減少し、その後2001年には少し増加している。新聞全体の総数では、Verbal Headlines の時と同様に特に顕著な結果は現われなかった。しかし、高級紙と大衆紙を比較してみると、高級紙では Verbal Headlines の時とは逆に、*The Times* と *FT* において1961年から1981年に減少傾向にあり、その後どの新聞もほぼ同数で安定している。大衆紙では逆に1961年から1981年にかけては、どの新聞においても増加の傾向にあり、2001年では、*The Sun* は少し減少しているが、ほぼ増加の傾向にあることがわかる。Nominal Headlines においても、高級紙と大衆紙の違いがはっきりと見られた。

表 2 Nominal Headlines

Nominal Headlines	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	45	15	29	56	20	18	17	28	145	83	228
1981年	16	14	22	13	23	30	34	34	65	121	186
2001年	13	15	27	22	40	36	24	31	77	131	208

Adverbial Headlines についてまとめたものが、表 3 である。今回は、合計3000個のヘッドラインを対象として考察したが、副詞句だけのヘッドラインはほとんどなかったため、各年代別の比較はできなかった。Adverbial Headlines については、非常に稀な構造であることがわかる。

表 3 Adverbial Headlines

Adverbial Headlines	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4	4
1981年	1	1	0	0	0	0	1	2	2	3	5
2001年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Free structure Headlines については表 4 にまとめた。総数をみると、1981年から2001年にかけて急激に増加しているのがわかる。高級紙においても増加し、*The Guardian*、*FT* において特に増加しているのがわかる。また、大衆紙において増加率がより顕著である。1981年から2001年の *The Mail*、*The Sun*、*The Mirror* において特に増加している。直接話法を用いたこのヘッドラインは、記事に登場する当事者の発言をそのままヘッドラインに取り入れる方法であるが、この方法を取ることで、その記事の臨場感が読者に伝わりやすいという点で、大衆紙で好まれ、また高級紙においても利用されるようになった

のでないだろうか。

表 4 Free Structure Headlines

Free Structure Headlines	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	3	5	0	0	13	14	11	8	8	46	54
1981年	5	5	2	0	9	15	15	10	12	49	61
2001年	6	3	8	5	19	18	29	31	22	97	119

総合的に考察すると、Free structure Headlines については新聞全体として顕著な増加がみられた。また、Verbal Headlines と Nominal Headlines については、高級紙と大衆紙によって特徴が二分され、高級紙では Verbal structure が増えて、Nominal structure が減り、一方、大衆紙では Verbal structure が減り、Nominal structure が増える傾向にある。ヘッドラインにおける高級紙と大衆紙の違いが過去40年間と経過と共に、より明白になってきていることがわかる。

3-3 機能による比較

次に、ヘッドラインの機能により分類して、その変化について考察した。分類の方法は、ヘッドラインの構造による比較と同様、Mardh (1980) を参考にした。ヘッドラインの機能として、(17)、(18)のような平叙文、(19)、(20)のような疑問文または疑問符を含むもの、(21)、(22)のような命令文、そして(23)、(24)のような感嘆文あるいは、感嘆符のついたヘッドラインの4つに分類した。その結果が表5から表8である。

Statements

- (17) Pressure on Post Office to cut costs (*Guardian*, 27 August, 1981)
- (18) Misery ship refugees threaten mass suicide (*Mail*, 28 August 2001)

Questions

- (19) 1,800 NOW TO LOSE JOBS? (*Guardian*, 25 August 1961)
- (20) Why did a laid-back constable turn killer? (*Express*, 30 August 2001)

Commands

- (21) GO EAST, YOUNG MAN (*Herald*, 26 August 1961)
- (22) PAY £300 TO DOSS ON LONDON STREETS (*Sun*, 28 August 2001)

Exclamations

- (23) Snake in the glass! (*Mirror*, 25 August 1981)
 (24) Guy's still the solo flier! (*Express*, 29 August 1981)

まず、Statements のヘッドラインの数をまとめたものが、表 5 である。新聞全体の総数からみると、1961年、1981年、2001年共にほとんど変わらないという結果になった。高級紙と大衆紙を比較してみると、高級紙は、全くと言って良いほど変化がなく、それに対し、大衆紙は少し変化があるとはいえ、全体としては変化がないと言ってよい。

表 5 Statements

Statements	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	125	125	122	123	118	119	117	116	495	470	965
1981年	124	125	122	124	115	114	104	119	495	452	947
2001年	122	121	123	124	112	115	115	122	490	464	954

Questions のヘッドラインの結果は表 6 である。総数では1981年に少し減少し2001年に増えている。高級紙と大衆紙を比較してみると、2001年に大衆紙の方で Questions のヘッドラインが増えているのがわかる。

表 6 Questions

Questions	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	0	0	3	2	2	3	4	5	5	14	19
1981年	1	0	3	1	3	3	2	1	5	9	14
2001年	3	3	1	1	12	5	3	2	8	22	30

Commands のヘッドラインの結果は表 7 である。総数からみると、1961年から1981年にかけて少し増えている。高級紙と大衆紙を比較してみると、高級紙では、1500個のヘッドラインの中で、Commands を使用したヘッドラインは2つのみであり、それに対し、大衆

表 7 Commands

Commands	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	0	0	0	0	3	1	1	3	0	8	8
1981年	0	0	0	0	4	5	4	2	0	15	15
2001年	0	1	1	0	1	5	6	0	2	12	14

紙には数件見られる。命令形のヘッドラインは高級紙では好まれないようである。ヘッドライン全体の総数から考えると Commands のヘッドラインは、非常に稀であるといえる。

表 8 は Exclamations のヘッドラインである。新聞全体でみると、1981年にかなり増え、2001年にはほとんどない。また、高級紙の1500個のヘッドラインの中で、Exclamations のヘッドラインは一つもなく、大衆紙だけで見られた。感嘆符を使用した感情を含むヘッドラインは高級紙では好まれないことがわかる。ヘッドライン全体から考えると Exclamations のヘッドラインも非常に稀であることがわかる。

表 8 Exclamations

Exclamations	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
1961年	0	0	0	0	2	2	3	1	0	8	8
1981年	0	0	0	0	3	3	15	3	0	24	24
2001年	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2

ヘッドラインを機能面から分類した表 5 から表 8 の全体を通して見てみると、約95%のヘッドラインが Statements に属することがわかる。そしてそれは過去40年の間で全く変化はない。その他のヘッドラインについては、数量的にはごく稀に使用されるだけであった。しかし、全体的に見ると、大衆紙においては、Questions、Commands、Exclamations 共にわずかではあるが考察されたことから、大衆紙では、様々なスタイルのヘッドラインを織り交ぜるという傾向が見られることがわかった。ただし、特に過去40年における変化は見られなかった。

3-4 動詞の態による比較

次に動詞だけに注目し、3-1において Verbal Headlines に属するヘッドラインについて、受動態と能動態の比率について40年間の変化を考察した。Waterhouse (1981) は、新聞の動詞について(25)のように、能動態が望ましいとしているが、実際にはどちらの比率が多いのであろうか。

- (25) The active voice is preferable for newspapers because it answers questions.
The passive voice often sounds as if it had something to hide.

(Waterhouse, 1981 : 93)

動詞の能動態と受動態の比較の結果が表 9 から表11である。3つの表からわかるように、

今回の結果では、87～88%が能動態であり、40年の変化は全く見られなかったのは興味深い。また、高級紙と大衆紙では、大衆紙の方が能動態のヘッドラインが多かった。

表9 1961年 Active voice VS. Passive voice

1961年	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
<i>Active</i>	66	86	90	66	85	89	85	83	308	342	650
<i>Passive</i>	11	19	6	3	6	3	10	6	64	25	89

表10 1981年 Active voice VS. Passive voice

1981年	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
<i>Active</i>	95	91	94	104	87	75	68	71	384	301	685
<i>Passive</i>	8	14	7	8	6	5	7	8	63	26	89

表11 2001年 Active voice VS. Passive voice

2001年	Quality Papers				Popular Papers				Quality Total	Popular Total	Total
	<i>Time</i>	<i>Telegraph</i>	<i>Guardian</i>	<i>FT</i>	<i>Mail</i>	<i>Express</i>	<i>Sun</i>	<i>Mirror</i>			
<i>Active</i>	92	101	83	88	61	67	61	61	364	250	614
<i>Passive</i>	14	6	7	10	5	4	11	2	59	22	81

3-5 その他

次に、数量的な考察ではなく、年代毎にヘッドラインの特徴を詳細に考察した。

(26)から(30)が1961年の例である。(26)は述語動詞を使用したヘッドラインの典型的な用例であるが、このような例は年代を問わず、多数見られる。(27)は、助動詞を使用した用例であるが、このような例は、3000個のヘッドラインの中でも数個に限定され、特に最近になって増加の傾向にあるということとはなかった。(28)は、‘YES’という口語的な語彙をヘッドラインに使用した例であるが、このような用例は年々増加しているように思われる。(29)は、間接話法を使用した例である。(30)は、(29)と同じ間接話法の例であるが、伝達動詞のかわりに、コロン（:）を使用している。最近では、このような伝達動詞を省略する形が一般化してきている。

(26) PRESIDENT RESIGNS IN BRAZIL (*Guardian*, 26 August 1961)

(27) MISSING WIFE MAY BE IN BARCELONA (*Telegraph*, 29 August 1961)

(28) HONGKONG ‘YES’ TO QUOTA PLAN (*FT*, 25 August 1961)

(29) KENYATTA SAYS NO “GANGSTER” GOVERNMENT FOR KENYA
(*Times*, 26 August 1961)

- (30) Berlin: HAND OFF! WARNS U.S. (*Express*, 25 August 1961)

(31)から(35)は、1981年の例である。(31)と(32)は、‘NOT ENOUGH’、‘Sinister’というように、語句に引用符をつけた例である。本文で使用されていたり、記事の当事者の発言のキーワードを強調した例であるが、このような例も最近では多くなってきている。(33)は名詞句であるが、to 不定詞で名詞句を修飾した例である。このように、同じ名詞句であっても、of などの前置詞を使用した名詞句ではなく、趣向を凝らせた名詞句が増えてきている。(34)は、if 節がヘッドラインに見られる。(35)は正確な数字をヘッドラインで使用して効果をあげている例である。

- (31) POST OFFICE'S £216m PROFIT 'NOT ENOUGH'

(*Telegraph*, 27 August 1981)

- (32) 'Sinister' case of missing wife (*Mail*, 29 August 1981)

- (33) Pressure on Post Office to cut cost (*Guardian*, 27 August 1981)

- (34) MPs may spilt if Benn gets the job (*Guardian*, 28 August 1981)

- (35) Jobless total up 88,400 in past month to 2.94m (*FT*, 25 August 1981)

(36)から(42)は2001年の例である。(36)は、予定を表す be to の用法を用い、be 動詞を省略した例であるが、この例は非常に多くなり、現在ではヘッドラインの一つの特徴とされている。(37)、(38)は、時を表す副詞節を用いた例で、特に when や while ではなく、as を使用する例が新聞英語には非常に多い。(39)、(40)は、名詞句の例である。(39)は関係代名詞で修飾した例、(40)は、コロンを使用して説明している。(41)は、記事の当事者本人の話した言葉を、間接話法ではなく、そのまま使用した例であり、(42)は間接話法の伝達動詞のない例である。このような例は、最近の大衆紙でよく見られる。

- (36) Toshiba to axe 18,800 (*Mirror*, 28 August 2001)

- (37) Clamour for revenge as PLO chief is killed (*Times*, 28 August 2001)

- (38) Mobile phone 'gold rush' over as sales plunge (*Telegraph*, 31 August 2001)

- (39) Mystery of PC who butchered his family (*Times*, 30 August 2001)

- (40) New Labour: out with red rose and in with the Big Mac

(*Guardian*, 30 August 2001)

- (41) I'm as sharp as I've ever been (*Sun*, 31 August 2001)

- (42) HAMILTON'S ACCUSER: I MAY HAVE BOOBED (*Sun*, 30 August 2001)

以上のように、過去40年を見てみると、200年前、100年前のヘッドラインとは構造、機能は同じであっても、副詞節、関係代名詞、記号などを組み合わせた構造の複雑化が見られることがわかる。

4. 結論

過去40年間のヘッドラインの変化について考察したが、まず、構造面では Free Structure が普及し、高級紙、大衆紙共に好んで使用されていることがわかった。また、高級紙では Verbal Structure が確立して好んで使用されるようになり、大衆紙については、構造面では Nominal Structure が増加し、機能的な比較においても、Questions、Commands、Exclamationsなどを織り交ぜたヘッドラインを使用する傾向が増えてきている。さらに詳細に考察した結果、名詞句においては前置詞を使用した簡単なヘッドラインばかりでなく、副詞節、関係代名詞などを含んだヘッドラインが増えてきている。

総合的に判断すると、ヘッドラインは構造の複雑化、さらに高級紙と大衆紙の二極化がますます進んできたといえる。

References :

- Crystal, David. *Language and the Internet*. Cambridge: CUP, 2001.
- Jucker, Andreas. H. *Social Stylistics : Syntactic Variation in British Newspapers*. Berlin : Mouton de Gruyter, 1992.
- Mardh, Ingrid. *Headlines : On the Grammar of English Front Page Headlines*. Lund : CWK Gleerup, 1980.
- 野波弘子「*The Times* のヘッドラインの変化に関する一考察」、『大手前女子短期大学研究集録』19、大手前女子学園、2000.
- Reah, Danuta. *The Language of Newspapers*. London : Routledge, 1998.
- Straumann, Heinrich. *Newspaper Headlines : A Study in English Method*. London : Unwin Brothers, 1935.
- Waterhouse, Keith. *Daily Mirror style*. London : Mirror Books, 1981.
- Waterhouse, Keith. *WATERHOUSE ON NEWSPAPER STYLE*. London : Penguin Books, 1993.